

都市における戦争と日常の交点を探る

ビジュアル資料を手掛かりとして

日時：2018年6月17日（日）13時30分～16時30分（13時00分受付開始）

場所：すみだ北斎美術館 講座室 〒130-0014 東京都墨田区亀沢2丁目7-2



(*写真はアメリカナショナルアーカイブス所蔵)

司会：深谷 直弘（福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 特任助教）

話題提供者：木村 豊（筑波大学 人文社会系 研究員）

コメンテーター：ケリー・カラカス（ニューヨーク市立大学スタテンアイランド校 准教授）

参加費無料・事前申込不要

*どなたでもご参加いただけます。

*美術館の展示をご覧になるためには別途観覧料金が必要となります。

*美術館には来館者用の駐車場がございませんのでご注意ください。

お問い合わせ先：メモリープロジェクト事務局（memory.project.japan2017@gmail.com）

*本研究会についてのお問い合わせは、美術館ではなく、上記のお問い合わせ先にご連絡ください。

本研究会は、公益財団法人トヨタ財団2016年度助成共同研究プロジェクト「戦争災害前後の日常生活の記憶継承に向けたアクションリサーチの実践的研究」の成果の一部として開催いたします。

[研究会趣旨]

都市の社会は、開発・破壊・再生を繰り返しながら成立してきました。しかし、都市の急速な発展は、そうした過去を想像することを困難にさせます。東京も長い歴史の中で度重なる自然災害や戦争災害に見舞われてきましたが、現在の東京を歩いてもそうした過去を想像することは難しいと言えます。

それでは、私たちはいかにして現在自分たちが生きている社会を過去から連続するものとして捉えることができるのでしょうか。とりわけ、戦時中度重なる空襲によって焦土と化した東京において、戦後70年以上が経過した今、いかに戦前の社会や戦時中の社会からつながりのあるものとして私たちが生きる現在の社会について考えることができるのでしょうか。

そのような問題意識から、本プロジェクトでは、アメリカのナショナルアーカイブスを中心に調査を行い、東京大空襲や広島・長崎の原爆など全国各地の戦争災害の被災地域において戦時期から占領期にかけて撮影された写真・映像資料を収集するとともに、それらの資料を人びとの「日常生活」に注目しながら他の歴史資料と重ね合わせていくことによって、都市社会における戦前・戦時・戦後の連続性について分析する活動を進めてきました。

そこで、今回の研究会では、そうした活動の中で収集されたビジュアル資料を手掛かりとして、都市における戦争と日常の交差について考える機会としたいと思います。また同時に、すみだ北斎美術館をお借りして開催する今回の研究会では、江戸時代に北斎によって描かれた江戸の風景を取り上げ、それと戦時期・占領期にアメリカ人によって撮影された東京の風景を重ね合わせることによって、東京の過去と現在について考えてみたいと思います。

[まちあるきワークショップ開催]

研究会当日の午前中に研究会に関連したワークショップを開催いたします。戦時期・占領期に撮影された東京の写真・映像資料を見ながら現地を歩きたいと思います。

日時：6月17日（日）10時00分～12時00分。9時50分にすみだ北斎美術館講座室集合。

参加費：無料 定員30名（先着順）

申し込み先：メモリープロジェクト事務局（memory.project.japan2017@gmail.com）

* 事前予約のみ、当日の受付はございません。申し込み締め切りは6月8日（金）です。

* お申し込みは、メールのみにてお願いいたします。

* メールの件名に、「6月17日ワークショップ申し込み」とご記載ください。

* 本文中に、お名前と当日連絡のつく電話番号かメールアドレスをご記載ください。

* こちらで昼食の準備はございませんので、午前中のワークショップに参加された後、午後の研究会にも参加される場合は、各自昼食を済まされてからご参加ください。

* 美術館の講座室では飲食が出来ませんのでご注意ください。